

発行所

〒921-8116

金沢市泉野出町3丁目10-10
石川県立金沢泉丘高校内

一泉同窓会

電話 (076) 242-0211

FAX (076) 242-0211

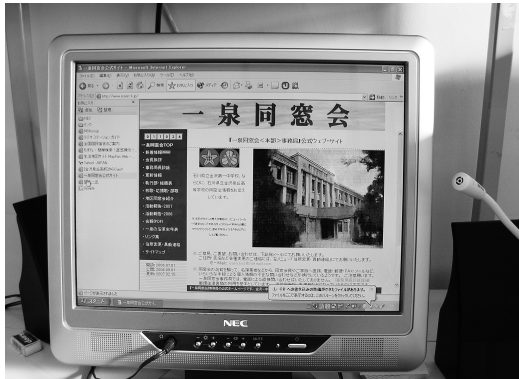
2007. 3. 31. 発行

E-mail: issen.knz@hotmail.com


<http://www.issen-k.jp/>

一泉同窓会のHPを開設 半年でアクセス1万2千件超え

HP表紙は春夏秋冬の4バージョン



一泉同窓会はIT時代に対応、同窓会の活動報告や各種連絡事項をより多くの会員にスムーズに周知徹底するため、平成18年9月1日、ホームページ（HP）を開設した。URLは「<http://www.issen-k.jp/>」。3月15日現在のアクセス・カウントは1万2千件を超え、関心の高さを示している。今年6月にはドメイン設置場所を金沢工業大学に移行、さらに充実とスピード化を図ることになっている。

OA委員がボランティア作業

同窓会のHP開設要望は、ここ数年高まる一方だった。開設に際しては今春卒業したコンピューター部員の力を借り、実作業は創立100周年時に組織されたOA委員4氏（上坂寿治・泉丘17期、高井三樹郎・同18期、中川恒雄・同18期、五井隆治・同37期）のボランティアで行われた。

内容は各種行事予告の「新着情報」、「役員と支部」、各期同窓会や部活OB会の「活動報告」

などのほか、歌声が流れる「校歌・応援歌・部歌」、昭和55年4月の創刊号から昨年3月の第33号までの会報「一泉」、創立113年間の中、泉丘の変遷が分る「一泉沿革史年表」など、見ても読んでも興味あるものが多い。

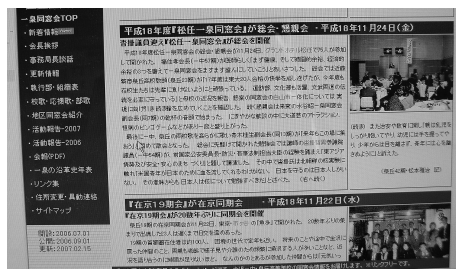
ドメイン設置場所を金工大へ

HPの立ち上げからかなりの情報を掲載したので、容量も窮屈になり各セクションの動きも遅くなった。

今春にはHP委員会を正式に誕生させ、委員を増員して改善を図るが、泉屋利郎一泉同窓会副会長（同14期）・金沢工業大学理事長の協力で、6月には同大学内にドメインを全面移行、容量を大幅に拡大できるようになった。

全面移行が完了すれば一中・泉丘の「人材紹介」など新たな企画や校舎の立体図面化、音声の多様化、写真の鮮明度化に取り組み、文字通り魅力あるHP作りが可能になる。

各期から掲載希望が
寄せられる活動報告



創刊号からじっくり読む
面白い会報





過去最高の840人が交流

創立113周年 一泉同窓会総会・懇親会

金沢一中と泉丘高校の創立113周年を記念する平成18年度一泉同窓会総会・懇親会は10月15日、金沢市のホテル日航金沢で開かれた＝写真＝。出席した87歳の中44期生から23歳の泉丘54期生までの約840人が青春時代に思いをはせ、「心身一如」の校是を確かめ合った。

蚊谷会長ら全役員を再選

総会では蚊谷八郎会長（泉丘14期）が会場いっぱいの同窓生に対し「同窓会意識の高まりは一泉魂そのものである」とあいさつ、中山一郎事務局長（同10期）が17年度決算と18年度予算、事業などについて説明した。また役員改選について、春の代表委員会で蚊谷会長以下12人の全役員の留任が提案されていることを報告、同意を得た。さらに新規事業と

厳粛に物故者慰霊祭

一泉同窓会の総会に先立ち、15日午後3時から母校の厳霜碑前で物故者慰霊祭が行われた。蚊谷八郎会長、川北篤元会長、総会幹事的神谷昌利泉丘25期代表、上田政憲校長をはじめ一中40～50期代の25人が出席した。

石浦神社の長谷勝俊宮司の祝詞のあと全員が玉串を捧げ、日露戦争以来の殉難者（昭和5年卒・一中37期生から同19年卒・51期生までの245人）や亡き師、友の霊に祈った。

してOA委員の努力によって9月1日からホームページを開設したことを報告した。続いて上田政憲校長が盛会への祝辞と、東大20人合格の快挙など母校の近況を報告した。

開催代表幹事期の泉丘25期が司会する懇親会はシンガーソングライター

一、松田亜世君（同50期）のステージで幕を開けた。さらに堅田乃莉さん（同5期）らによる「一調一管」の演奏が披露された。続いて鏡割り＝写真＝、川北篤元会長（一中55期）の乾杯の音頭で酒宴に移った。会場では久しぶりに会う級友同士、先輩や後輩との和やかな交流風景が続き、応援歌、校歌の熱唱など盛り上がりの中で閉会時間となり、尾戸嘉博さん（同49期）の音頭で万歳を三唱して閉会となった。

トピックス 「八田與一展」開く

台湾の大地を潤した男「八田與一展」が生誕120年を記念して平成18年10月26日から19年2月25日まで、金沢市下本多町の金沢市立ふるさと偉人館（同館主催）で開かれた。

八田氏は明治19年、金沢の今町に生まれ金沢一中11期（同37年卒）。四高、東大と進んで台湾総督府に勤務。34歳のとき嘉南大圳を立案・設計、10年かかって完成させたが、56歳のとき大洋丸の沈没で死去した。

同展には台湾の嘉南農田水利会が所蔵・管理する工事中的の写真や東大時代のノートなど約200点が展示された。一泉同窓会も卒業名簿や写真などを貸与、協力した。また八田技師夫妻を慕い台湾と友好の会（中川外司事務局長・泉丘8期）は1月18日、八田氏の又従兄弟の洋画家・伊東哲氏（一中16期）が描いた肖像画の複製を泉丘高校に寄贈した。

地区同窓会だより

06関東一泉同窓会総会・懇親会
世代を超えて親睦深める

関東一泉同窓会の平成18年度総会・懇親会が10月13日、東京・九段北のアルカディア市ヶ谷で開かれた。開催幹事の泉丘27期による「嬉し！楽し！お菓子く！同窓会」のテーマに沿った演出に、出席した一中42期から卒業したての泉丘58期までの約300人が世代を超えて親睦を深めた＝写真＝。

総会では役員改選が行われ、大西忠副会長に代わって新たに杉原弘泰氏（泉丘9期・弁護士）を選出、浅井敏郎会長（一中50期）ら7氏が再選された。浅井会長は今夏の高校野球決勝戦の感動を引き合いに「母校も過去4回甲子園に出場している。近い将来再び出場してくれることを願っている」とあいさつ、蚊谷八郎一泉同窓会会長が盛会に対し祝辞と27期の努力にお礼を述べた。



続いて上田政憲校長が母校の近況を報告した後、乾杯の音頭を取り懇親会に移った。歓談の合間に大道芸の披露や全員参加のゲームがあり、旧交を温めた。27期の西田習太郎代表幹事から次期幹事の28期・宇野泰宏代表に幹事引継ぎが行われ、一中・泉丘の両校歌を高らかに合唱、糸田宗人副会長（一中54期）の閉会の言葉で名残を惜しみながら散会した。

恩師囲んで盛大に懇親会

26回目の関西一泉同窓会

関西一泉同窓会の第26回（平成18年度）総会が6月3日午後、JR大阪駅ビルのホテルグランヴィア大阪20階鳳凰の間で開かれ、出

席した100余人が旧交を温めた＝写真＝。

片瀬貴文会長（一中55期）が「今年も100人を超える参加で、しかも若い人たちが増えうれしく思う。母校は今春20人の東大合格者を出し、全国的な話題になった。長生きして後輩たちが世のために活躍する様子を楽しみたい」とあいさつ、金沢から駆けつけた蚊谷八郎一泉同窓会会長、普神貴行同副会長、上



田政憲校長、小浦場昭芳（国語）、高橋健（英語）の両恩師、中山一郎事務局長が順に登壇、盛会を祝した。上田校長は近況報告の中で「今春の卒業生357人のうち249人が難関の国公立第1次志望校に合格（70%）した。この成果を持続したい」と述べた。

最長老の長岡寛厚さん（一中43期）の乾杯の音頭で懇親会に移り、若松正志さん（泉丘34期）、入間川麻由美さん、奥田睦美さん、小田和代さん、木ノ下千佳子さん（いずれも同22期）が進行役を務めた。歓談の間では卒業アルバムを手にも恩師の両先生を囲んで話が盛り上がり、お楽しみ抽選会も好評で予定の時間が瞬く間に過ぎ、別れを惜しんで一中・泉丘の校歌を高らかに歌った。辻本初枝副会長（同4期）の謝辞でお開きとなり、今年も片瀬会長がお土産に準備した「圓八あんころ」が全員に配られた。

二次会は例年通り松尾ゆきえさん（通信12期）経営の北新地のバー「珠洲」で。40人余りが参加してもう一度盛り上がった。

任田副会長の後任に柚木宏氏

なお、17年8月に亡くなった任田友樹副会長（一中56期）の後任に柚木宏さん（泉丘6期）が選出された。



大道芸やゲームで盛り上がり

松任一泉が18年度総会開く

平成18年度松任一泉同窓会の総会・懇親会が11月24日、グランドホテル松任で75人が参加して開かれた。福住孝会長（一中57期）が医師らしく「まず健康、そして時間的余裕、経済的余裕の3つを蓄えて一泉同窓会をますます盛んにしていこう」とあいさつした。

総会では近藤繁彦泉丘教頭（泉丘23期）が母校の近況を報告、懸案の同窓会の白山市一体化については実現に向け引き続き輪を広めていくことを確認した。

続く懇親会は来賓の水谷昭一泉同窓会副会長（同7期）の乾杯の音頭で始まった。にぎやかな歓談の中に大道芸のアトラクション、恒例のビンゴゲームなどがあり一段と盛り上がった。最後に一中・泉丘の両校歌を歌い青木桂生副会長（同13期）が「来年もこの場に集おう」と締めて散会となった。

沓掛参議院議員が講演

総会に先駆けて開かれた勉強会では講師の沓掛哲男参議院議員（一中54期）が、前国家公安委員長・防災・有事法制担当大臣の経験を踏まえ「東アジア情勢及び安全・安心のまちづくり」と題して講演した＝写真＝。沓掛

氏は北朝鮮の核実験に触れ「米国青年が日本のために血を流してくれるわけがない。日本を守るのは日本人しかいない。その意味からも日本人は核について勉強すべきだ」と述べた。また治安や教育に関し「親は乳児をしっかり抱いてやり、幼児には手を握ってやり、少年からは目を離さず、青年には心を離さぬように」と訴えた。

（泉丘42期・松本雅治 記）

三馬一泉同志会が総会・懇親会 小村博士(泉丘13期)の講演聴く

三馬一泉同志会の18年度総会・懇親会が6月26日、金沢ニューグランドホテルで16人が出席して開かれた。角信平会長（泉丘5期）が「三馬校下の同窓生が親睦を目的に集い始めて今年で早18年、参加者を増す努力は欠かせないがたとえ10人を割っても継続していこう」とあいさつ、校歌、応援歌にカラオケの熱唱も続いて和やかな地域同窓会となった。

総会に先立ち小村和久金大自然計測応用研究センター低レベル放射能実験施設長（教授



・理学博士、同13期）の「世界一の微弱放射能測定拠点を目指して」の講演を聴いた＝写真＝。小村教授は旧尾小屋鉱山のトンネル内で行っている実験は宇宙線の影響をほとんど受けないため、世界的な評価を上げていることを紹介した。

青森 稲村合同事務所

司法書士 青森 達彦（泉丘23期）

事務所

〒921-8013 金沢市新神田4-4-11
TEL (076) 291-1021 FAX (076) 291-1019

あずきさわ内科 クリニック

院長 小豆沢定秀（泉丘23期）

〒920-0342 金沢市畝田西3-62-1
TEL (076) 266-2280

加藤企業(株)

代表取締役 加藤 與晴（泉丘23期）

■マンボウ金沢 TEL (076) 237-5171(代)
〒920-0016 金沢市諸江町中丁348 FAX (076) 237-5173
■マンボウ小松 TEL (0761) 20-1888(代)
〒923-0034 小松市長田町口4-1 FAX (0761) 20-1889
■マンボウ高岡 TEL (0766) 25-8208(代)
〒933-0838 高岡市北島311-1 FAX (0766) 25-8209

一中・泉丘 各期の集い①

◆安田君来沢で一中45期生が小宴

昨年(平成18年)の3月22日、一中45期の安田道夫君が東京から久しぶりに来沢した。桜にはまだ早かったが急きょ金沢に住む同窓生に声をかけ、大手町のKKR金沢に集まった。荒川宏、新沢義男、谷内正二、松本武雄、岡島弘、中村忠重に私・石崎皓三の7人がかけつけ杯を酌み交わした。いつものことながら一中時代から今日までと話が尽きなかった。

(石崎・記)

◆一中46期、60回目の同窓会

一中46期の平成18年度同窓会が6月25～26日、片山津温泉の「佳水郷」で開かれた＝写真＝。今は亡き内田一、石野竜山、村井又兵衛



君らの提案で戦後毎年続けており、これで60回目。すでに80歳半ばをすぎ年々参加者は減っているが、今年は14人が集まり老いて益々盛んの様相。さらに瀬川成君の夫人が民舞仲間2人と共に賛助参加され、艶やかな踊りの披露に酒宴は大いに盛り上がり、校歌を歌い、深夜まで歓談が続いた。

(松本忠男・記)

◆一中50期生が浅間温泉で同窓会

一中50期生の同窓会が10月3日、信州・松本の浅間温泉「ホテル小柳」1泊で開かれた＝写真＝。年々参加者が減っているが、今回

は21人の参加で盛会となった。

まず西坂弥三郎代表から今年亡くなられた方の知らせがあり、ご冥福を祈った。続いて林哲夫兄の句碑が金沢の犀川神社境内に建立されたことや、一泉同窓会代表委員の太田重



雄兄から母校の近況が報告された。引き続き新田史郎兄の乾杯の音頭で酒宴に入った。久々に顔を見せた人もあり、話題は尽きなく、楽しい会となった。

翌朝はホテルで解散予定だったが別れ難く松本城、開智学校、民芸館、仲町通りを見て回り、松本駅でようやく散会した。

(浅井敏郎・記)

俳人林さん(一中50期)
犀川神社で句碑除幕

金沢市高岡町出身で一中50期の林徹(はやし てつ)さん(80)＝本名・哲夫、広島市西区＝の句碑「石路(つわ)の花 言葉短くあたたかく」の除幕式が8月5日、金沢市中央通町の犀川神社境内で行われた。林さんは俳誌「雉(きじ)」の主宰で同人や一中同級生ら110人が集まって除幕を祝った。

林さんは一中卒業後、金大医学部へ進み昭和26年、故沢木欣一さんが主宰する「風」に入会して本格的に俳句を始め、平成13年に俳人協会賞を受けた。

宝石・時計・メガネ
(株)北野時計店

代表取締役 **北野 宏喜** (泉丘23期)

〒924-0874 白山市四日市町11
TEL・FAX (076) 275-0227

胃腸科・外科・内科
人間ドック・こう門科

北村クリニック

院長 **北村 徳治** (泉丘23期)

〒920-0853 金沢市本町2-5-5
TEL (076) 232-1515 FAX (076) 232-1501

中村雅紀税理士事務所

税理士 **中村 雅紀** (泉丘23期)

〒921-8173 金沢市円光寺2丁目345番地
サンピア泉ヶ丘ビル2階A・2号
電話 (076) 241-3094
FAX (076) 241-2077

◆一桜会が湯涌温泉で同窓会

一桜会（一中51期）恒例の同窓会が平成18年5月25～26日、湯涌温泉の「湯の出」で開かれた。関東、関西地区から各4人、中部地区から2人、地元13人の計23人が出席した＝写真＝。

記念写真撮影の後、室谷幹事から昨春の同窓会後に亡くなった4人の名が報告された。中でも同窓会直前の10日に急逝した宮林和彦君の訃報はショックだった。宮林君は一桜会



発足以来、代表幹事として会の運営に尽力してきた。それだけに宮林君の死は出席者一同にとって誠に「寂漠哀惜の情」に堪えないものがあり、生前のご苦勞に対して深甚の敬意を表し、その死を悼んだ。これで物故者は112人（過半数）となり、改めて亡き友の冥福を祈り黙祷をささげた。

関東代表の西川君の乾杯の音頭で酒宴に移ったが、毎回のことながら杯を重ねるにつれ話が弾み歌が出た。特に京都から初参加の三田村正治君が62年間の空白を埋めるかのように話す姿が印象的だった。（園部哲三・記）

◆一中54期東京支部が総会

一中54期（朱木会）の東京支部は5月15日、東京・新宿の「木曽路」で昼食会を兼ね総会を開いた。松任からの板尾達雄君を加え16人が参加した。

まず他界した友へ黙祷をささげ、年4回の

集まりと会誌「朱木東京版2号」の発行を決めた。近況報告ではまだ現役の者、執筆活動やボランティアと高齢者なりに社会に貢献している様子が報告された。元トヨタカローラ石川社長の石崎定男君から先ごろ出版した「甦れ、販売の騎士たち」をいただき、人間の生き方を綴った本にみんな元気をいただいたと喜んだ。

◆関東金沢一中五五会が年3回集う

昭和23年に金沢一中を正規に卒業した55期生は、関東周辺に約40人住んでおり、3、7、11月の年3回、正午から銀座ライオン・ピアホールに集まって昔話に花を咲かせている。鶴屋君が熱心に世話役をかってくれており、毎回20人以上が集まっている。

去年の11月は15日に開催＝写真＝、金沢から乙村君が来てくれた。話題はいつも美川の立川航空工廠に勤労働員され、3直交代で夜も飛行機の部品を作っていた時のこと。

当時最新鋭の「キー84・陸軍戦闘機・疾風」で、石橋君が写真のコピーを持ってきて皆に配ったので話が弾んだ。



<参加者>泉常夫、井東敏彦、石橋雄二、圓角脩、大西章、乙村董、加藤正平、小村隆、小堀和哉、下村佳生、清野知士、竹中道人、鶴屋一郎、同夫人、利岡正、中村浄一、中西健治、西田芳、丹羽靖一郎、林永、平松健治、藤田栄一、福田喜洋、横井健（丹羽・記）



Creation & Technology

株式会社 五井建築設計研究所

代表取締役 西川 英治（泉丘23期）

〒920-0061 石川県金沢市間屋町2丁目1番地
Tel (076) 237-8441 Fax (076) 238-9094
E-mail: office@goi.co.jp http://www.goi.co.jp



トータル・システム・ソリューションの

BETSUKAWA

株式会社 別川製作所

代表取締役社長 別川 稔（泉丘23期）
白山市漆島町1136番地
TEL (076) 277-6700 (代)
http://www.betsukawa.co.jp/

一級建築士事務所

(株)細川計画設計

代表取締役 細川 斉（泉丘23期）

事務所

〒921-8155 金沢市高尾台3-5
TEL (076) 296-3722 FAX (076) 296-3782

昨春（平成18年）、関東一泉同窓会の糸多宗人副会長（一中54期）から近況を知らせる便りが同窓会事務局に届いた。文末に漢詩とエピソードが添えられていたので、その一部を紹介しよう。

「早春思郷」

清麗白峰天際煌
落輝縹渺照滄洋
北前船影河津絶
庁址寂然鳶遠翔

清麗の白峰

天際にきらめき

落輝縹渺として滄洋を照らす

北前船影河津に絶え

庁址寂然鳶遠く翔ぶ

この「早春思郷」は裁錦会詩集第八集の私の掲載箇所のトップを飾っている。一中同期の氷田正男（草風）氏が掛け軸に書き、白山市（美川）の石川ルーツ館



母校への思い、漢詩に

一中54期の糸多さん

に展示されている。

「金沢一中泉丘高校頌春歌」

金城森緑賛桜詩

睥睨泉原育健児

流転時潮伝統耀

嚴霜烈日麒麟碑

金城の森緑にして桜詩を賛え

泉原を睥睨（へいげい）して

健児を育む

流転の時潮にも伝統かがやき

嚴霜烈日は麒麟の碑たり

この詩は同期の諸君から作詩するよう慫慂（しょうよう）され、作ったものです。氷田正男君は一中の先輩で兄上の光風氏（昨秋死去）に遠慮してか、まだ掛け軸に書いてない。いずれ何らかの形で関東一泉同窓会ででも披露する機会があればと思っている。

◆一中55期が喜壽記念同窓会

金沢一中五五会（55期生）は平成18年9月21日、粟津温泉「法師」で喜壽記念同窓会を挙行。当日はまさに晴天の秋空に恵まれ、関東、関西、中京など遠地からの20名を含め46名が参加した。

島厚夫幹事代表からの歓迎の言葉のあと、川北篤会長があいさつ。同窓の即真尊麗氏（比叡山延暦寺長膺）のご導師により85名の物故者への追悼黙祷を捧げ、幹事の会務報告で級友の動静が伝えられた。

関西代表・片瀬貴文氏（関西一泉同窓会会長）の音頭で乾杯、祝宴に入った。やがて近藤中橋氏らリーダーの旗振りで校歌、応援歌を叫び、丹羽靖一郎関東地区代表の発声で万歳三唱、横井健中京地区代表のあいさつで幕を閉じた。そのあと別室では個々に深夜遅くまで語り明かした。

翌朝、希望者25名がバスで金沢に向かった。観光団は変貌する山側環状線を走り、野田山墓地の前田家墓所を参詣し、母校（現金沢泉丘高校）厳霜碑を拝礼、21世紀美術館、JR

金沢駅の鼓門を観賞、音楽堂観覧のあと散会した。



<出席者>石橋雄二、上田総一郎、大窪外慶、太田忠夫、大西 章、乙村 董、笠松茂雄、片瀬貴文、金井一郎、上谷親夫、川北 篤、川端 潔、岸本督夫、越沢 晃、近藤外志雄、斉田直行、澤枝 茂、柴田 豊、島 厚夫、清水源良、下地寛迪、清野知士、副田清夫、竹中道人、田村裕喜男、即真尊麗、即真夫人、土田克信、経田政人、出口善人、中橋壽雄、西川 晃、西田 芳、丹羽靖一郎、端詰英一、林 永、平松健治、広瀬末治、星 孝次、堀 利雄、宮下三郎、三輪泰一、向 昭吉、横井 健、吉川正美、吉田武義（金井・記）

◆泉丘4期生会が粟津温泉で総会

泉丘4期生会の総会・懇親会が9月28～29日、粟津温泉「のとや」に一泊して開かれ、全国各地から参加した52人が2年ぶりの再会を楽しんだ＝写真＝。

中野達之副幹事の司会で92人の物故者に黙祷を捧げ、山崎昭一郎会長があいさつ、2年間の経過報告や会計報告が行われた。懇親会の司会は示野恵美子副幹事が努め、鰐淵幹雄顧問の乾杯で始まった。すでに70歳の峠を越えているのに高校時代の話が昨日のように弾んだ。参加できなかった約180人の便りを見谷篤男幹事がプリントして配布、懐かしい話題がさらに広がった。



◆八泉会が卒業50周年の集い

泉丘8期「八泉会」の卒業50周年同窓会が8月12日、金沢ニューグランドホテルで108人が集まって開かれた＝写真＝。

午後2時からの総会では中谷玲子さんが司会を務め、新しく就任した福田太睦代表幹事、細川外喜男初代代表、中村吉輝前代表がそれぞれあいさつした後、同期の鳥越嵩竜勝寺住職の読経で故人となった48人の法要を営んだ。続いて同中川外司氏が「知ってほしい一中の先輩 八田與一の偉業」と題して講演、恩師・普神貴行先生のあいさつ、同じく中山道子さんのバイオリン演奏、元音楽部員の合唱など盛り沢山の出し物が披露された。

同5時からの懇親会は加藤弘雄氏が司会、各地区代表による鏡割りでも幕を開け、個性豊かなスピーチやカラオケの熱唱、ビンゴゲームなどで盛り上がり、最後に全員輪になって校歌を歌い懐かしい高校時代にフラッシュバックした。会場を変えた2次会も大盛況、昔話や世間話に花を咲かせた。(茶屋勝也・記)



トピックス

八泉会が昨春、母校で行った醍醐の桜植樹の写真パネルと鑑定書が、9月1日から3日間開かれた泉丘高校創立記念祭で展示された。

母校の桜は昭和12年、金沢一中が本多町から泉野出町の現在地に新築移転した当時に植えられたもので約70年たっており、樹勢の衰えが目立つ。そこで水泳部OBの泉

醍醐の桜植樹の写真展示

泳会が桜の植樹を提唱、さる3月21日にソメイヨシノ7本を植えた。これに呼応した八泉会が京都・醍醐寺のシダレザクラのクローン化に成功している住友林業（東京）の協力で苗木5本をもらいうけて同日、同窓生らが参加して植樹した。この様子を9枚の写真に収めたパネル(縦72センチ、横92センチ)とクローン桜の鑑定書を8月下旬に母校に寄贈した。


北陸電力株式会社

執行役員 石川支店長 **堀 祐一** (泉丘23期)

〒920-0993 金沢市下本多町6-11
TEL (076) 233-8877 FAX (076) 233-8755

ぐるーぷ ほーむ **杜の郷 本多**

代表取締役 **前田 久美子** (泉丘23期)

〒920-0964 金沢市本多町3-11-23
TEL (076) 231-5878 FAX (076) 231-2600

 **株式会社 宮地組**

代表取締役社長 **刀禰 芳昭**

本社/〒928-0001
石川県輪島市河井町6部35番地
☎ (0768) 22-1281(代) FAX (0768) 22-5956
金沢支店/〒920-0935
金沢市石引1丁目15番22号
☎ (076) 262-6666(代) FAX (076) 231-2003

◆八泉A B会が古希記念同窓会

八泉会(泉丘8期)の3A、3Bホーム(商業科)合同の古希記念同窓会が11月15～16日、山中温泉「よしのや依緑園」で25人が出席して開かれた。今年は卒業50周年と古希の節目にあたり、出席者全員で白山神社に詣で、ますますの健康と不老長寿を祈願、気分も新たに懇親会場の山中温泉に向かった。

いつまでも話の尽きない懇親会を校歌斉唱で締め、二次会ではカラオケ大ホールで青春時代の歌を大合唱するなど、盛大で楽しい一夜となった。(茶屋勝也・記)

◆皇居を望み関東八泉会

関東八泉会(泉丘8期)が1月13日昼、東京・丸の内ビル35階のレストラン「サンス・エ・サヴール」で開かれた。卒業50周年を機に昨年1月、関東地区在住の約80人を対象に新たに組織化したもので、今回は金沢からの福田太睦代表幹事を含め22人が集まった。

会場は皇居の緑を望む最高の場所で、旧友との会話や景色を楽しみ、高級フランス料理に舌鼓を打った。

◆関東9期会が忘年会

関東9期会(泉丘9期)は昨年暮れの12月16日昼、東京・日比谷の松本楼で忘年会を開



いた＝写真＝。今回の幹事は新たに関東一泉同窓会の副会長に就任した杉原弘泰君で、31人が出席、フランス料理を楽しんだ。

有志の近況報告や歓談のあと、金沢から参加の西川義正代表幹事が今秋開催する「卒業50周年の集い」への参加を呼びかけ、みんなで盛り上げることを確認した。

(西島幸男・記)

◆泉寿会が湯涌温泉で総会

泉丘10期「泉寿会」の平成18年度総会が8月16日、湯涌温泉の「かなや」(安藤精孝社長・同17期)で56人が出席して開かれた＝写真＝。



まず53人の物故者に黙祷をささげ、若林茂樹会長が再会の喜びを語り、遠来勢の労をねぎらった。続いて中山修副会長(次期会長)の乾杯発声で酒宴が始まった。途中、関東からの7人を代表して金子兵衛会長代行、関西からの6人を代表して堀内寛司会長があいさつ、尽きない歓談の後、校歌を歌って締めた。2次会は場所を変えてカラオケ大会となり、いっものながら深夜まで楽しい時を過ごした。

また前日の16日、白山カントリーでの懇親ゴルフには16人が出席、茅ヶ崎市から初参加の宮腰幸男君が優勝した。

◆泉寿会が東京と金沢で新年会

関東泉寿会(大西忠会長)恒例の新年会が1月28日、東京・新宿の日本出版クラブで36人が出席して開かれた。また金沢でも2月24日、香林坊の金沢エクセルホテル東急で新年会を開き、67人が出席して友好を深めた。

加賀友禅

二代 由水 十久 (泉丘23期)

〒920-0964 金沢市本多町1-10-18

金沢の奥座敷・湯涌温泉
夢二館の高台

湯涌山荘 やまね

支配人 吉田 康晴 (泉丘23期)

～竹林に囲まれた露天風呂・ジャグジー・
うたせ湯で極上の湯浴み～

ご予約をお待ち致しております。
TEL (076) 235-1321
http://www.yuwaku-yamane.com

わかばやし眼科
アイコンタクトレンズ

院長 若林 謙二 (泉丘23期)

〒921-8845 野々市町太平寺3-160
(国道沿い)

TEL (076) 294-0707 FAX (076) 294-0711
URL: http://www.waka.or.jp/



OEK創設のため奔走

日本を代表する指揮者で、オーケストラ・アンサンブル金沢（OEK）音楽監督、石川県立音楽堂の芸術監督、戦時中の一時期を金沢一中で学んだ岩城宏之さんが、平成18年6月13日、心不全のため亡くなった。73歳。

NHK交響楽団正指揮者やメルボルン交響楽団終身桂冠指揮者として全国や海外での音楽活動を積極的に進め、古典、現代曲を問わずダイナミックな表現で世界にアピールした。

「日本にも本格的な室内管弦楽団を」と、母が育った街、戦時中疎開した思い出の金沢に、1988年「オーケストラ・アンサンブル金沢」設立の中心となって奔走、設立と同時に音楽監督に就任し団員を指導した。

終戦の年、東京から疎開

金沢一中在籍は、東京から疎開して終戦をはさむ数ヶ月の短い期間だったが、岩城さんにとって忘れられない学校生活となった。昭和23年に一中卒業という意味を込めて「一二三（ひふみ）会」と名付けた同期生の親睦会に、多忙で出席こそできなかったものの、いつも気配りされた岩城さんだった。

秋の一夜、一二三会＝泉丘三期会の井波外志雄、大竹春生、小松暁一、辰島勝治、徳久和夫、中山卯吉、松村晴夫の皆さんが在りし日の岩城さんをしのび、語り合った。

☆今から20年ほど前、当時の教育長から電話があり、一中同期の縁で、OEK設立の話に私（小松）まで同席して岩城さんに会ったことが、なつかしい思い出。

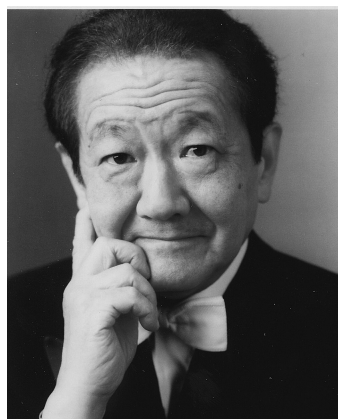
☆岩城さんは空

戦時中、金沢一中に在籍
岩城宏之さん逝く

天上でも指揮を

襲で焼け出され昭

和20年の6月、金沢医専教授だった母方の伯父を頼ってお母さんと二人、金沢へ疎開されたい。笠舞の笠松という大き



な農家だったようだ。確か中田という人だったと思うが、岩城さんと一諸に法島の坂を上り寺町を歩いて半年間通学したと聞いていた……。

同窓会への出席かなわず

☆一年生の一学期に東京から転入して来られたが、二学期にはもう敗戦だからね。それまでの軍国主義がガラリー転、教科書の軍国主義的部分を墨で塗りつぶした。岩城さんにとってそういう強烈な体験が一中に通ってた時だったということでしょうね。

☆卒業30周年記念の名簿を作成していたとき岩城さんの名前を見つけ、オッという気持ちだった。以来、同窓会の開催を知らせ、そのつど返事をいただいたが多忙で欠席だった。2005年9月の一二三会への『欠席』の返信が最後になった。関東一泉同窓会にも出たいと希望されていたようだが、かなわなかった……。

活動の支えに恩師の言葉

敗戦後の金沢で、一中のある先生の言葉が岩城少年の心を動かした。「これからお前たちは文化の兵隊さんになれ」。その一言が岩城さんの潜在意識として深く残り、後の音楽家としての活動の支えだったのだ。

OEKの専属医として海外公演に同行した川北篤・一泉同窓会元会長は「OEKを世界のオーケストラにしよう一生懸命の人でした」と偲ぶ。岩城さんの思い出を重ねて……。

一中・泉丘 各期の集い②

◆5年ぶりに緑窓会、110人参加

泉丘12期・緑窓会の同期会が10月14日、金沢駅前の「ホテル日航金沢」で開かれた＝写真＝。還暦記念の集い以来5年ぶりの開催で、全国から110人が参加した。

林勝一さんと梅谷和子さんが司会、泉匡隆幹事代表があいさつ、全員で52人の亡き友の



霊に黙祷を捧げ冥福を祈った。卓上には吉田外志雄さん（酒造）提供の美酒「手取川」があり、村上与恵さん（東京）の音頭で乾杯、華やかに開宴となった。いつもながらの近況や懐旧談に花が咲き、校歌と応援歌を大合唱、次なる再会を約束して散会した。

◆36会が卒業45周年同期会

泉丘13期同期会（36会）は10月14日、卒業45周年（昭和36年卒業）を記念して金沢スカイホテルで同期会を開催した。全国各地から96人が出席し、泉丘時代の思い出や近況を語り合った。

司会の平野武嗣さんの提案で開会前に、時の重大ニュース「北朝鮮の地下核実験」の放射能汚染調査について同期の小村和久さん（金沢大学教授）から興味深い話を聞いた。

飯倉亨さんが開会のあいさつ、乾杯の音頭は渡辺英勝さんが母校の近況報告を含めて簡

潔、高らかに行った。懐かしい友との再会、会話が弾み飲み物も進んで盛り上がったところで、今村邦明さんが得意のアルトサックスを演奏した。フィナーレは荒清峯夫さんの旗振りで全員大声で校歌を歌い、米田勇一さんの久しぶりのリードで「フレ～フレ～いずみ」と蜜声を張り上げ、母校のますますの隆盛を祈念した。中締めのみあさつで寺井直則さんが「次回の同期会は5年後でなく5年以内に開きたい」と述べ、大きな拍手となった。

（伊藤尚朗・記）

◆泉丘14期、諏訪温泉や主計町に集う

関東一四会（泉丘14期）の総会が10月21～22日、長野県の諏訪温泉「山王閣」で開かれ、金沢から駆けつけた蚊谷八郎一泉同窓会会長、泉屋利郎同副会長を含めた35人が楽しい語らいの一夜を過ごした。初日には近くのゴルフ場で懇親ゴルフ会も開かれ、20人が好プレー、珍プレーを展開した。

また、地元金沢の一四会恒例の忘年会は例年通り12月14日、主計町の鍋割烹「みふく」



で開かれた＝写真＝。第一線を離れて帰郷し初参加の2人を加え、41人がカキ鍋に舌鼓を打った。

14期は今年（19年）卒業45周年の節目の年。関東、関西からの強い要望で7月8～9日、山代温泉「ゆのくに天祥」で記念の同窓会を大々的に開くことにしている。

お買いものはタデマチへ

豎町商店街振興組合

元理事長 水 辺 博（一中48期）
理 事 須 田 紀久治（泉丘11期）
理 事 長 東 川 庄 一（泉丘23期）

監 事 四 尾 章（泉丘4期）
常務理事 北 中 元 章（泉丘19期）
常務理事 吉 村 高 太（泉丘40期）

◆17会（いちななかい）も湯涌に集う

泉丘17期同期会「17会（いちななかい）」が10月21～22日、湯涌温泉「かなや」（安藤精孝社長・同期生）で開催された。今回は、還暦という節目の年を記念して温泉1泊の同期会であり、全国から94人の仲間と恩師楠禎一郎先生の参加を得て盛大な会となった。

記念撮影の後、同期会の幕が開いた。まず41人の物故者に黙祷を捧げ、続いて小堀幸穂会長が開会のあいさつ、楠先生からもお祝いと励ましの言葉をいただいた。東京から参加の中村雅美君の発声で乾杯、酒宴が始まった。この日、ツインフィールズゴルフクラブで併催された「ゴルフ会」の表彰式（優勝者・早森智則君）や、クラスごとの近況報告などを織り交ぜながら、久しぶりの再会を楽しむ光景があちこちで繰り広げられた。会も終わりに近づき、渡辺満君のリードで校歌を4題までしっかりと斉唱、最後に横浜から駆けつけた中山（小幡）芳子さんの音頭で万歳を三唱して中締めとなった。

2次会は場所を変えてさらに話が弾み、深夜までカラオケに興ずるなど本当に楽しい会となった。（福田雅幸・記）

◆泉丘18期の関東おはこ会開く

平成18年6月10日、東京・新宿のホテルセンチュリーサザンタワー21階パークルームで泉丘18期の「第3回関東おはこ会」＝写真＝を開催した。

関東在住の同期生が気軽に集まれるようにと、5年前に会を発足させた我々も来年は還暦。40年ぶりの初参加者や金沢、大阪からも駆けつけた仲間は52人。同窓会報「一泉」の配布、母校の生徒たちの活躍の報告があり、折りしも金沢では「百万石行列」が行われて

いるとのことで、変わり行く故郷の様子などを聞き、会場は瞬く間に高校時代にタイムスリップ、懐かしく楽しい会話に包まれた。

今回のアトラクションには、吉祥寺のライブハウスで活躍している後輩・泉丘50期のシ



ンガーソングライター松田亜世君を迎え、「廓唄」「がんばるまっし」「おかえり」と金沢の香り立つオリジナルソングに酔いしれた。

アッという間に閉会の時となり、全会員の健康を祈り、名指揮者に従って校歌斉唱、来年（19年）9月の「第11回おはこ会・還暦祝会」での再会を固く約束して散会した。まだまだ話し足りない者、飲み足りない者は二次会、三次会へと歌舞伎町のネオンの中に連れ立って行った。（山本星子・記）

◆在京19期会が20数年ぶりに同期会

泉丘19期の在京同期会が11月22日、東京・市ヶ谷の「魚多」で開かれた。20数年ぶりの集まりで出席した23人は遅くまで旧交を温めあった。

19期の首都圏在住者は約100人。団塊の世代で定年も近い。将来のことや途中で金沢に戻った仲間のこと、両親も老齢で様子見や介護のため頻繁に帰沢する人が多いことなど、近況を語り合うのに時間が足りないほど。なんのかんのとあるが、参加した仲間からは「元氣いっぱい」が感じ取れた。（山崎 喬・記）

医療法人社団

岡部歯科医院

理事長 **岡部 浩一**（泉丘24期）

〒920-0341 金沢市寺中町ホ74-18
TEL・FAX (076) 268-4511



株式会社 **金森合金**

代表取締役 **金森 和治**（泉丘24期）

〒920-0348 金沢市松村6-100
TEL (076) 267-3003
FAX (076) 267-3019

きたがわ内科クリニック

・内科・神経内科・循環器科
・リハビリテーション科

北川 義展（泉丘24期）

〒921-8063 金沢市八日市出町578
☎ 076-249-9191

◆泉23期関東在住者、熱海の夜を楽しむ

泉丘23期の関東在住者の同窓会が平成18年2月25日、熱海の南明ホテルで開かれ、16人が夜半過ぎまで語り明かした。

23期の関東在住者は約80人。14年の関東一泉同窓会で幹事役を務めたのを機にゴルフコンペ、コンサート観賞、忘年会と何かにつけ集まって旧交を温めている。熱海の梅園で梅見、夜の宴会は人生の円熟期（53歳？）を迎えたパワーで話題がとどまることがなく、ラウンジでの二次会、部屋に戻っての三次会と続いた。

◆金沢では地元有志で忘年会

泉丘23期の地元有志忘年会が12月13日夜、金沢市大工町の割烹「赤まんま」で開かれた。20人が参加、年明けの19年度に全体同窓会を開くことを申し合わせた。23期の同窓会は、一泉同窓会の111周年総会の主幹事を務めた16年度以来で3年ぶり。宮地治代表が呼びかけた。（高木英良・記）

◆泉丘29期、8年ぶりに集う

泉丘29期の同窓会が8月12日夕、金沢スカイホテルで開かれた。時々気の合った仲間が集まっているが大々的な集いは平成10年以来8年ぶり。参加した68人は思い出話に花を咲かせた＝写真＝。



まず、物故者に黙祷をささげた後、期代表の川北哲氏の乾杯で宴が始まった。テーブルはクラス別だったが開宴後すぐに誰彼となく入り乱れ、昔話に酔いしれた。そして、元応援団の竹内均氏の音頭で懐かしい校歌を合唱、久しぶりの同窓会開催に精力的に動いてくれた押野毅氏の中締めで、1次会は盛会のうちに終わった。場所を変えた2次会にも約7割が参加、走馬灯のように流れ出てくる思い出の1コマ1コマを確認しあった。「2年後ぐらいに恩師を招いてまた集まろう」と約して散会した。（広多清一・記）

◆泉丘31期が4年ぶりに同窓会

新年間もない平成19年1月3日、泉丘31期の同窓会が金沢エクセル東急ホテルで4年ぶ



りに開かれた＝写真＝。40人が出席、恩師の池田英夫先生、正村健三先生、山村勢一先生にも参加いただいた。

新年のあいさつもそこそこに、昭和51年から54年までの高校時代の懐かしい思い出話に花を咲かせた。近況報告では県外も含め、各方面での活躍の様子が語られた一方、「もうすぐ孫が一」といった話も出て、歳月の移り変わりに感慨ひとしおといったところであった。

最後に、5年後に控えた一泉同窓会総会の幹事を一致結束して務めることを確認、またの再会を誓い合った。（近藤勝則・記）

◆ 金石タクシー(株)

相談役 越田 迪 (一中52期)
代表取締役専 越田みちえ (泉丘24期)
越田 大地 (泉丘49期)
〒920-0336 金沢市金石本町二の6
電話 076-267-2281(代)

キグナス石油 特約店
北星産業株式会社

代表取締役社長 小杉 雄二 (泉丘24期)
〒921-8817 石川県野々市町横宮町6-1
TEL (076) 248-3284 FAX (076) 248-7362
http://www.hokusei.co.jp

給排水衛生・空調 設備工事 設計・施工
みなみ設備工業(株)

代表取締役社長 新保 良介 (泉丘24期)
本部
〒921-8835 石川県野々市町上林5-33
TEL (076) 248-3730 FAX (076) 248-3356

◆泉丘36期が10数年ぶりに同窓会

泉丘36期（昭和59年卒業）は8月12日、金沢ニューグランドホテルで10数年ぶりに同窓会を開いた。92人が出席、招いた恩師5人を囲んで楽しい真夏の1日を過ごした。

当日はテレビ・ラジオでお馴染み、同期の角野達洋北陸放送アナウンサーの司会で始まった。出席いただいた長柄勝美、畑野禎、中橋大通、加藤茂芳、西谷隆の5先生の元気なお姿と話にまず感動、久しぶりの人、卒業以来

の人などさまざまであちこちに話の輪ができた。多少？体形と髪型は変わっていても、すぐ高校時代に戻れるのが同窓会の良いところ。あっという間に2時間が過ぎた。懐かしさで別れづらく片町へ流れた2次会、3次会、4次会まで語り合う仲間もいた。

サッカーワールドカップに併せての次回開催を考えており、今回出席できなかった人も次回は出てくれることを願っている。

（高宮一朗・記）

おめでとう「一泉賞」 18年度は3人に贈呈

平成18年度の「一泉賞」受賞者は3人。3月4日の通信制（1人）と5日の全日制（2人）卒業式の席上、蚊谷八郎一泉同窓会会長から各人に賞状とトロフィー、副賞の図書カード1万円分が贈呈された＝写真＝。

同賞は一泉基金事業の一つとして平成6年度に設けられたもので、在学3年間を通じ学業と課外活動を両立させた生徒に贈られる。

受賞者は次の皆さん。

◆北村千代子 一念奮起して通信制に入学、子育てと仕事の中で計画的に勉学を進め優秀

北村千代子さん



魚住洋輔くん



藤農慎弥くん



な成績を収めた。生徒会役員も3年間務め、今年度は会長として活躍した。3年次の校内生活体験発表会で最優秀賞に選ばれ、中部地区の同発表会でも最優秀賞に輝いた。卒業後は通信制の大学進学を目指している。

◆魚住洋輔 3年間相撲部と柔道部に所属し、全国高校相撲金沢大会に3年連続出場、泉丘の連続出場を守った。3年次では団体決勝トーナメント進出の原動力となり、個人戦でもベスト16で敢闘賞を受賞した。ブラジル派遣選手団にも選ばれた。柔道部でも石川県の優秀選手として活躍、上位入賞を果たした。

◆藤農慎弥 アドバンス数学部では普段から自作問題を出して、周囲の生徒に良い刺激を与えた。2年次では日本数学オリンピックで銀賞（2、3位に相当する成績）を受賞、上位14人による同オリンピック世界大会の選考合宿に参加したが、惜しくも世界大会出場選手（6人）にもれた。



合同行政書士事務所

行政書士 西山 忠（泉丘24期）

事務所

〒921-8001 金沢市高島1-392
TEL (076) 291-8626 FAX (076) 291-8627
URL: <http://godojimu.net>

橋爪石材工業(株)

代表取締役社長 橋爪 良三（泉丘24期）

有松店 〒921-8161 金沢市有松2-1-4
☎ (076) 241-2255
松任店 〒924-0076 白山市法仏町649
☎ (076) 276-1449

北陸製版株式会社

代表取締役 南 也司志（泉丘24期）

〒920-0856 金沢市昭和町5番12号
TEL (076) 263-6434
FAX (076) 223-6361

文化・運動部 OB 会だより

第35回一泉櫻美会美術展
21世紀美術館で初開催

金沢一中・泉丘高校の美術部OBや関係者による第35回一泉櫻美会美術展が平成19年1月8日から14日までの1週間、金沢市広坂1丁目の金沢21世紀美術館で開かれた＝写真＝。

同美術館での開催は初めてで、会場の1階Aギャラリーには64会員の作品84点に加え現役生美術部員13人の14点と併せ98点の力作が展示された。今年85歳になる恩師水田清風さんの書、一中39期の村田尚一さんの油絵、同52期・大樋勘兵衛さんの抹茶椀のほか日本画、水墨画、木版画、写真、刻字、パステル、パンフラワーから組紐、ちぎり絵と多岐にわたる出品作は、訪れた多くの同窓生や一般鑑賞者の目を楽しませた。



昨春は浅の川画廊で小品展

一泉櫻美会の小品展が平成18年4月25日から30日まで、金沢市並木町の浅の川画廊で開かれた。

会員80余人のうち36人が油絵や日本画、版

画、写真、書など約40点を出品した。医王山や浅野川など市内の身近な景色をはじめ、イタリアの街並みなどさまざまなものをモチーフにした力作に、同窓生だけでなく多くの市民が鑑賞に訪れた。

泉丘10期の田中さんが個展

泉丘10期の田中蓉子さん（金沢市出身、千葉県八千代市在住）の「銅版画・洋画展」が4月25日から30日まで金沢21世紀美術館市民ギャラリーで開かれた。故郷での初個展で銅版画38点、洋画11点が展示された。

洋画は130号3点をはじめ100号のチベット紀行など大作ぞろい。一方、「メゾチント」技法の銅版画は、ビロードのような漆黒の下地に花やペットの動物、仏像、波濤などが緻密に表現され、来場者の目を引いた。出展作の一つで130号の「レースの風景（破砕）」が一泉同窓会に寄贈された。

また会期中の27日夜、金沢市観光会館で「田中さんを励ます会」が開かれ、10期の同窓生を中心に約50人が集まって田中さんの活躍をたたえた。

藤井さんが白峰メルヘン展

第3回藤井肇（泉丘4期）白峰メルヘン展が11月1日から1ヵ月間、白山市白峰の「望岳苑」で開かれた。

縦15センチから横30センチほどの素焼きの陶片をアジアの国々の紙でくるみ、その上に白峰の古い民家や風景を油絵の具で描いたもので、研修室の廊下などに13点が展示された。造形作家の藤井さんらしく、ちょっとねじれた陶片や色合いが郷愁を誘い、訪れた人たちはじっと見入っていた。

村田金属工業株式会社

代表取締役 村田 勝（泉丘24期）

〒924-1125 白山市旭丘2-15
（旭工業団地）
TEL (076) 274-0011
FAX (076) 274-2224

TV番組・CM・ビデオパッケージ・WEB制作
株式会社 道 洋 行

代表取締役社長 村本 道廣（泉丘24期）

金沢市松島2-191 Image Station COM 〒920-0364
TEL 076-269-8888 FAX 076-269-8899
URL <http://www.michiyoko.co.jp/>

あずさ監査法人
金沢事務所

代表社員 公認会計士 山田 雄一（泉丘24期）

〒920-0864 金沢市高岡町1-45
金沢大同生命ビル5F
TEL (076) 264-3666 FAX (076) 264-3666

泉丘と早実、5月20日に交歓試合 県立野球場 OB会が創部100周年事業

一泉野球部OB会（山本道生会長、一中54期）は今年、創部100周年を迎える。そのメインイベントとして5月20日の日曜日、石川県立野球場で泉丘高校と早稲田実業の現役同士の交歓試合を行うことになった。

OB会の村山秀一さん（泉丘32期）と早稲田実業の和泉実監督が早大野球部で同級生だったことから話が進み、宮地治100周年実行委員長（同23期）が2月14日、東京・国分寺市の同校を訪れて正式決定した。ただし早稲田実業が春の都大会で決勝まで進んだ場合は、日程の都合上中止となる。

早稲田実業野球部は、王貞治監督や荒木大輔投手を生んだ名門チーム。特に昨夏、甲子園の全国高校野球大会決勝戦で駒大苫小牧と延長15回1-1で引き分け、翌日の再試合に4-3で勝ち悲願の全国制覇を果たし、秋の国体でも1-0で苫小牧を破り優勝した。

当日、早稲田実業は遊学館と試合を行い、正午過ぎから泉丘と戦う予定。入場は無料。

大崎氏の水泳殿堂入り祝う

水泳部OBの泉泳会は昨年12月2日、金沢駅前のガーデンホテルで大崎剛会員（泉丘9期）のマスターズ国際水泳殿堂入り祝賀会を開いた＝写真＝。向川勇会長（一高）、上田政憲校長、会員ら25人が出席した。

大崎氏は昭和35年のローマオリンピック400M平泳ぎ、山中毅選手らと出場した混合リレーの2種目で銅メダルに輝いた。現在は日本マスターズ水泳協会会長として競技人口の拡大、レベルアップ、世界大会への参加者

増に努めている。こうした功績が認められて昨年8月、殿堂入りの栄誉を得た。時子夫人も日本人初のマスターズスイーマーとして既に入堂しており、夫婦そろっての殿堂入りは珍しい。

大崎氏は祝賀会に先立って講演、自分の水泳人生やそこに導いた両親の深い思いについて話した。席上、泉泳会会員で陶芸家・市川清鱗氏（同4期）制作の扇寿型大飾皿が大崎氏に贈られた。



陸上部OB会 木本会長ら全役員再選

泉丘高校陸上部OB会の18年度総会・懇親会が12月2日、金沢市片町の玉寿司本店で25人が集まって開かれた。

初めに9月に亡くなった斉藤茂夫さん（泉丘19期）に黙祷を捧げ、議事に入った。木本利夫会長（同16期）が「会員相互の連絡を強め後輩の指導・応援を積極的に行っていこう」とあいさつ、役員改選では木本会長、草野賢治副会長（同15期）ら8人全員が再選された。

神奈川県茅ヶ崎市から駆けつけた上田廣次さん（同4期）の音頭で乾杯、酒宴に入った。ここでもOB会運営の話が続き、会員名簿の充実、記録集作成のほか、競技続行会員は「OB会」の名称で各種大会に出ては一との意見が出、検討する事にした。



高級美術印刷・マーケティング・IT支援・出版

株式会社 橋本確文堂

代表取締役社長 橋本 勝郎
(泉丘12期)

営業本部 〒921-8025 石川県金沢市増泉4-10-10
TEL:(076)242-6121 FAX:(076)243-7945

東京支店 〒105-0021 東京都港区東新橋2-16-3
TEL:(03)5472-7030 FAX:(03)5472-5101

www.mba.co.jp



株式会社 山越

http://www.kai-p.co.jp/

代表取締役社長 山越 昭雄 (泉丘11期)

■コンテンツ事業部
〒920-0001 金沢市千木町70-1 TEL(076)257-9111(代) FAX(076)257-9119
■メディア事業部・総務部
〒920-8665 金沢市兼六元町3-78 TEL(076)222-1144(代) FAX(076)262-5577

谷 惠吉郎(一中20期)海軍大佐のこと

1941年(昭和16年)12月8日、真珠湾を奇襲して日本が米国に戦いを挑んだいわゆる太平洋戦争勃発から4ヵ月後のことである。シンガポールを占領した日本軍が、英軍高射砲陣地から押収したレーダーのアンテナに付いていた「YAGI」マークが、東北大学の八木秀次教授の発明品と分るまでにかなりの時間がかかった。

太平洋戦争で索敵能力の狭さ露呈

すでに英・独がヨーロッパ戦線でレーダーを使いこなしているのを視察した日本が、本格的に予算を投入して研究開発に取り組んだのは、41年春からで、海軍艦政部の開発命令は同年8月2日に出された。翌、42年6月のミッドウェー開戦までに試作品2基が完成、北のアリュシャンの濃霧の中での作戦に役立つことが分ったが、主戦場では日本の戦闘機が健闘、敵の雷撃機などを片っ端に打ち落として戦局を有利に進めているかに見えた。

しかしミッドウェーでは、突然現れて急降下する敵機の爆撃に日本艦隊は甲板上の爆弾・魚雷を誘発し、空母4隻と全搭載機を失った。くしくも最初の一発で司令塔の艦橋が吹っ飛び、火災の中で沈んでいった空母「加賀」の艦長岡田次作少将は金沢一中18期生(明治44年卒業)であった。電波を使わない索敵能力の狭さの故だが、技術の発達は早く3年後の45年には500キロ先の米軍爆撃機の編隊を発見できるようになったのだから。

電波の発射は「闇夜に提灯」と同じ

ミッドウェー海戦から6年さかのぼった1936年(昭和11年)11月、海軍技術研究所電気研究部第一科主任の谷惠吉郎(一中20期、四高、東大・電気、1995年没)造兵大佐が上司の部長に対し「これまでの研究技術を集大成すれば、新しい索敵兵器が実現する」と提

案した。が、「敵前で電波を発射して索敵するのは、闇夜に提灯で物を探すようなもの。探すより先に逆探知される。帝国海軍伝統の奇襲攻撃には不向きである」と退けられた。日清・日露戦争で海上の砲撃戦に圧倒的勝利を収めている日本海軍幹部の自信をうかがわせ、谷のあとを継いだ伊藤庸二大佐も翌年具申したが、同じ壁にぶつかった。

谷の力で東京～北京間通信に成功

当時谷は短波無線電信では日本のトップ研究開発者だった。1921年(大正10年)に高周波発電機式送信機を開発、次に短波に切り替えて、24年に東京～北京間の通信に成功した。28年には日本最初の水素制御発信装置とビームアンテナ方式の開発に成功、この電波が世界各地へ飛んだ。しかも米国RCA社製よりはっきりした音だった。



短波無線のトップ開発者 レーダー提案退けられる

谷少将は「日米両軍の兵術思想の差異、すなわち彼の科学的で進取的、私の確信的で守旧的な思想が勝負を分けた」と言っている。また海軍のレーダー開発の中心人物だった伊藤大佐は、先輩谷の基礎研究が非常に役立ったと述べている。

後手になった科学技術水準の遅れ

太平洋戦争の後半、日本の首脳部がようやく科学技術水準の遅れが致命的だと悟り、さまざまな手を打ったが手遅れだった。永井柳太郎ら国会議員の提案で特別科学学級の設置が制度化され、金沢一中が全国で5群の中に選ばれたのもその一例である。理数に特に優れた生徒を集めて教育し、その知能に新兵器の発明を期待したのだった。45年に発足し、48年(昭和23年)3月廃止になった。

私たちの母校・泉丘高校はこの58年間、何度か科学教育に挑戦した。現在は世界に羽ばたく人材育成のため国が指定したスーパーサイエンスハイスクールとして健闘中であり、一泉の伝統の一つである科学的探究や技術開発に立ち向かう精神は脈々と生きている。



応援旗かざし母校めざす 「一泉行列」に56人参加

金沢泉丘高校の第58回創立記念祭は9月1日から3日まで、にぎやかに開催された。今年から前日際に位置づけられた恒例の「一泉行列」は8月31日、OB56人を含む総勢350人が金沢市内のメインストリートを練り、一中・泉丘の心意気を示した。

一中の桜章校跡地・本多町から香林坊一片町一有松を經由、泉野出町の現校舎まで4.5キロを1時間半かけて歩くこの行列は「一中魂から泉丘魂」への継承を目指すもの。OB参加も年々増え、昨年の倍増となった。

午前10時15分に金沢市観光会館前を出発。蚊谷八郎一泉同窓会会長（泉丘14期）、村本喜和子同副会長（通信28期）をはじめ最年長の山本道生野球部後援会長（一中54期）らが一中・泉丘の応援旗をかざして母校をめざした。泉泳会のものぼり旗、10月15日の一泉同窓会総会の案内プラカードも登場し

たが、今年の最大特徴はOGが7人も参加したこと。

11時45分、母校グラウンドでの到着式で蚊谷会長が「一中・泉丘ここにありーを在校生と一緒にアピールでき楽しく歩けた。ありがとう」と述べた。



金沢一中50期の茅野さん（81歳、東京在住）がこのほど、「母校弓道部の後輩たちに」と弓道関係本36冊を寄贈した。

トピックス

重さを知り、「わが生涯学習」と練習に励み6段にまで上り詰めた。

寄贈本は初心者向けから初等・中等向け、流派書、人物研究、弓が主題の小説まであり、茅野さんは「高校3年間に読みこなせる範囲のものをそろえた」と話している。

主な寄贈本は次の通り。カッコ内は著者。

＜初心者向け＞初心者のための弓道（浦上博子）＜初・中等者向け＞弓道教本第四巻（全日本弓道連盟）弓道入門（稲垣源四郎）

詳説弓道（小笠原清信・白石暁）弓具の見方と扱い方（浦上栄）＜探究者向け＞弓道教本第二・三巻（全日本弓道連盟）弓道指導の理論と実際（入江康平・森俊男）弓道読本（唐沢光太郎）弓道指導の手引き（同）日本の弓（斎藤直芳）現代の弓道（橋田栄次）＜人物研究＞弓と禅（オイゲル・ヘリゲル）私の弓道修行（石岡久夫）射道の人吉田能安（寺田隆尚）射聖阿波研造（櫻井保之助）

茅野さんと弓との出会いは一中4年生の夏のこと。弓道部の級友の誘いで初めて蹠（かけ）を着け、矢を射った。この初体験の興奮は、70年近く経った今でも昨日のこのようにさわやかに思い出されるとのこと。

一中50期の茅野さん 「弓道本」36冊を寄贈

次の出会いは就職して3年目。職業的悶々から逃避しようと、無闇やたらと剛弓を引いた一時期があった。ただ無心になれるものを求めていたのだらうと述懐する。

そして三度目の出会いは平成7年の夏。仕事をやめており、自宅近くの東京都武道館へ散策の折、弓道の練習を見た。久しく忘れていたものを思い出され、弓の一から習い始めた。実に合理的な弓に二千年に及ぶ歴史の

「可能性信じ目標定めよ」 社会人と語る会で5先輩

泉丘高校出身の先輩たちの話を聞き、自分の将来や進路の参考にする平成18年度『社会人と語る会』が11月2日、2年生を対象に啓泉講堂で開かれた。

小川哲哉さん



植村まゆみさん



浅野弘治さん



内田滋一さん



今井美和さん



パネリストとして招かれたのは北國新聞社社長室次長の小川哲哉さん(31期)、ジョブカフェ石川センター長の植村まゆみさん(33期)、浅野歯科産業社長の浅野弘治さん(34期)、石川県財政課主幹の内田滋一さん(同)、石川県立看護大助教授の今井美和さん(36期)の5人。コーディネーターは中村義治教諭が務め、「21世紀を生きる君たちへのメッセージ」と題して話し合った。

まず進路の決め方について5人は、それぞれ自分の体験を通じて報告した。「自分の可能性を信じ、早めにやりたい仕事を定めるほうが大学名や学部が分り、目標に向かった受験勉強ができる」や「あまり深刻にならなくても良い。社会に出てからの頑張りが大切」などの意見が出された。現在の仕事の魅力、将来の夢なども発表されたが、高校時代のすごし方や後輩へのメッセージでは「勉強はしすぎることはない。社会へ出てから高校時代にもう少し頑張っておけばよかった」と思うことが多々ある。「高校時代に学んだこと、覚えたことは社会に出てからの土台になる」「受験勉強は人生で一番苦しい時期だと思う。2年間ほどの我慢で将来が拓ける。頑張っておきたい」「2年生までは好きな本をどんどん読むように。日本語ができない人は英語もできない」と後輩たちにエールを送った。また「いつごろから受験勉強に力を入れたか」との生徒からの質問に5人は「分らない

ことはその日のうちに友達や先生に聞いて理解しておくように。そうしておけば創立記念祭後からでも十分間に合う。勉強だけの高校生活でなく、野外劇や部活動で楽しい思い出と多くの友達を作っておきたい」と訴えた。

村本副会長、人生を語る



金沢泉丘高校通信制の平成18年度総合的学習は10月22日と23日に行われ、講師に選ばれた同28期の村本喜和子さん(一泉同窓会副会

長)が2日間とも6限目に登壇、「私の職業観」と題して約100人の後輩たちに「仕事は忍耐」「人生死ぬまで勉強」と諭した。

貧しくて高校に進学できなかった村本さんは中学校卒業の時、「60歳までに高校、大学を卒業する」と決意したと語りだした。結婚後は難病の子を抱え入院費稼ごのため運転手、喫茶店経営など10指に余る職業を体験した。少しでも賃金の高いところを求めての変遷であり常に全力投球だった。裏を返せば「忍耐」であり、我慢して務めれば必ず報われるとその時々のエピソードを交えて話した。そして昭和53年、泉丘高校通信制に入学し7年かかって卒業、平成元年には近畿大学法学部通信制に入学、16年かかって卒業、いまま金沢大学の市民講座で学び続けている。「知らない」と失敗する。知識は自分に安心感を与えてくれる。自分の人生設計をしっかりと決め、その目的に向かって歩んでほしい」と訴えた。

トピックス

通信制の澤本さん 全国バド大会で優勝



全日制から転向し、卒業に向け学習に励む金沢泉丘高校通信制3年の澤本奈津紀さんはバドミントンが得意で、8月16日から19日まで小田原市で開かれた第8回全国高等学校定時制通信制大会の女子個人戦と同団体戦で見事に優勝した。また、6月の石川県大会で個人優勝、9月の北信越大会でも個人と団体戦に優勝した。

平成18年度一泉文庫寄贈・購入本

書 名	著 者	購入・寄贈者
甦れ、販売の騎士たち	石崎定男（一中54期）全5冊	石崎定男（一中54期）
鮎ヶバリ大図鑑	竹下苔石（一中51期）	中野他喜夫（一中52期）
CCLONE SHOGO	滝内こづも（泉丘56期）	購入
エッセイ集 もう一つ金沢	斉田直行（一中55期）	斉田直行（一中55期）
医事法の構想	金川琢雄（泉丘7期）	金川琢雄（泉丘7期）
日本古代の史料と制度	「加賀国の交通路」山本和幸（泉丘45期）	山本和幸（泉丘45期）
歴史研究一大阪教育大	「古代能登国の駅路」山本和幸（同上）	山本和幸（泉丘45期）

活躍する後輩たち

東大13人、京都は最多の23人

国公立大前期入試で健闘

3月10日に東大、京大の前期入試合格者が発表された。昨年、東大に20人が合格した泉丘は今年、13人（現役10人）と減少したものの、過去5年間では昨年に次ぐ多さとなった。一方、京大は23人（同19人）が合格、過去最多を記録した。

他の有名大学でも現役生は健闘。阪大は昨年より6人増の16人、東北大は5人増の10人、神戸大も2人増の10人、金沢大は7人増の55人が合格した。また一橋大5人、北大10人、名大7人と県立高校ナンバー1の実力を遺憾なく発揮した。

進路指導担当の菱田浩章教諭は「東大に限らず上位校の受験者を増やして底上げを図った。京大はその結果の現れ」と話している。

利長さんに「あすなる青春文学賞」

金沢文芸館は2月2日、第一回あすなる青春文学賞の受賞者と作品を発表した。短編小説部門は泉丘高校1年の利長明日海さんの「つぎはぎヒーロー」が優秀賞を受賞した。同部門には中学生2人、高校生18人の計20人が応募した。

SSHの研究結果を英語で発表

文科省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定されている泉丘高校で昨年12月19日、研究発表会が開かれ、理数科の生徒が4月から進めてきた「酸化チタン粉末による工場排水の浄化」などの研究結果を英語で発表した。犀川で採集した工場排水に有機物の吸着作用がある酸化チタンを入れて紫外

線に当てると、汚染の程度を表す指標のCOD（化学的酸素要求量）の値が半減することを示した。また「錯視の研究」「月の科学」など9グループの研究結果が発表された。

高校新聞コンで5年連続最優秀賞

第55回県高校新聞コンクールの審査会が10月16日、北国新聞会館で行われ、総合の部の最優秀賞に泉丘が5年連続で選ばれた。

県合唱コンでも金賞に

第48回県合唱コンクールが8月20日、能美市の根上総合文化会館タントで開かれ、高校Aに出場した泉丘は見事金賞を獲得、中部大会への切符を得た。

＜編集後記＞

「石川県内、1月の積雪ゼロ」に代表されるように、今年の冬は記録的な暖冬となった。雪かきがなくて楽、それならばと老体にムチ打って早々とスノータイヤをノーマルに付け替えたとなんの3月7日、8日に10センチもの積雪があった。この日は県内公立高校入試日。なんで今になって一と思った人は多かっただろうが、後輩を目指す受験生たちは元気いっぱい。一人の遅刻者もいなかった。

それにしても世界各地から届く異常気象のニュースは怖い。自然に反して横暴な暮らしを続ける人間が、地球温暖化を引き起こし、異常気象を発生させていると指摘されて久しい。自分にできる省エネは何かを真剣に考え、実行していかなければならない。

「一泉」編集室

正村健三（泉丘4期） 中山一郎（同10期）
浅香以都子（同10期） 小林弘子（同12期）
題字・高川義一（一中53期・泉丘2期）